

第 11 回石西礁湖自然再生協議会 議事概要

■日 時：平成 21 年 6 月 26 日（金） 13:30～17:00

■場 所：大浜公民館

■参加者：委 員：40 名（個人 15、団体・法人 11、行政 14）※環境省、沖縄総合事務局除く
傍聴者：12 名、（うち報道関係：2 社）
事務局：環境省/5 名、沖縄総合事務局/2 名、その他/6 名
計 65 名（※団体・法人、行政については、出席機関数とする。）

■議 題：

- （1）委員の活動報告
 - ①環境省石西礁湖自然再生事業について
 - ②生活・利用検討部会の現状報告
 - ③委員による自然再生に関連する活動報告
- （2）今後の協議会の進め方について
- （3）テーマごとのグループディスカッション及び意見交換
 - ①陸域対策（赤土・生活排水等の流入対策）
 - ②普及啓発（サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発）
 - ③資金メカニズム（寄付金の募集と運用）
- （4）その他

■概 要：

はじめに（新規委員の承認）：個人参加として大見謝辰男氏、岡地賢氏、鈴木豪氏、団体参加として八重山マリンレジャー事業協同組合が新規委員として承認された。

（1）委員の活動報告

①環境省石西礁湖自然再生事業について

環境省から、平成 20 年度石西礁湖自然再生事業の結果概要及び平成 21 年度の事業計画概要についての報告が行われた。主な内容は次のとおりである。

- ・ サンゴ群集や攪乱要因のモニタリングは、過年度同様平成 21 年度も引き続き実施する
- ・ 常時モニタリングシステムによる海況観測も引き続き実施し、経年変化の把握に努めるとともに、データは WEB サイトで公開する。
- ・ サンゴ群集修復事業として、平成 20 年度は周辺海域に種苗採取用の着床具を 58,242 個設置し、4,895 個の種苗を移植した。平成 21 年度は、着床具を 44,748 個設置済みで、今後は着床したサンゴ種苗を移植していく予定である。
- ・ オニヒトデ駆除事業については、平成 20 年度は対策連絡会議において関係者と調整し、駆除を実施した。また、平成 21 年度においては、6 月初めにオニヒトデ対策検討会を実施した。その中で限られた駆除努力量を集中するため保全海域を絞り込むことや効果的な駆除手法について検討するとともに、地域関係者との意見交換会を開催し合意形成に努めている。
- ・ その他にも、協議会のポータルウェブサイトの構築やシンポジウムの開催について報告した。

②生活・利用検討部会の現状報告

竹富町から、第5回生活・利用に関する検討部会についての報告が行われた。主な内容は次のとおりである。

- ・ 検討部会での活動状況として、“石西しょうこちゃん”の下敷きを作成・配布したこと、各所で好評を得たこと、などが報告された。
- ・ 検討部会での審議状況として、海上交通は①島での安全・安心な生活の確保、②自然環境の保全、の2点を目指すことが報告された。
- ・ また、航路の現状と必要性についてPPTを用いた説明が行われ、石西礁湖内は浅瀬・リーフが多く昼間運行に留まっていること、特に小浜航路では顕著で特殊船が必要になっていること、それでも大潮干潮時は航行不能であること、平成7～16年の10年間で52件の事故があり半数以上がリーフ乗り上げであること、などが紹介された。
- ・ 島づくりの理念として、海上交通ネットワークの整備が重要と位置付けている。安心と環境保全とが両立した航路を目指したい。開発は最小限、サンゴ被度が高いところは避ける、コスト縮減などに取り組む。
- ・ 具体的な航路については、複数案（3ルート）で種々の観点から検討し、竹富南ルートを選定した。
- ・ 地元への説明会もこれまで行ってきたが、主な意見として「朝～夜まで運行してほしい」、「サンゴへの影響に配慮してほしい」、「今後も説明会を実施してほしい」といった声があった。
- ・ これらの検討成果や意見を束ね、今後も整備に向けて取り組んでいきたい。

③委員による自然再生に関連する活動報告

4名の委員から、各種活動についての報告が行われた。主な内容は次のとおりである。

- ・ 吉田会長代理より、八重山サンゴ礁保全協議会での取り組みとして、リユース食器導入と効果について報告があった。イベント時にリユース食器を導入し、ゴミの軽減に役立った。地元高校のボランティア部の協力もあり、500人規模のイベントで3袋のゴミに抑えることができたことなど、大きな効果を実感できた。
- ・ 大堀委員より、「海辺の環境教育フォーラム 2009in 石垣島」について紹介があった。上記八重山サンゴ礁保全協議会の取り組み（リユース食器）を最初に取り入れたイベントで、海の未来・子ども達の未来というテーマでシンポジウムを開催した。
- ・ 恵委員より、委員のヨット世界一周に対して寄付金を募り、そのお金で応援フラッグを作成したこと等についての報告があった。
- ・ 環境省より、土壌保全の日に行われたイベントについて報告があった。緑肥効果のあるクロタラリアを播種することで土壌流出防止と土壌保全に資するという取り組みをイベントとして実施した。クロタラリアは生長が早く、播種後2週間である程度裸地を覆っていた。

(2) 今後の協議会の進め方について

今後の協議会の進め方について、全体構想の内容を振り返りながら、現状での課題を整理するとともに、今後展開すべき取り組み・進め方についての議論がなされた。その結果、地域主体の委員会を立ち上げ活動の実行性を高めていくことが、基本的な方向性として承認された。

(環境省) 全体構想における自然再生の区域は、石西礁湖だけではなく陸域も含めた八重山全体を指している。その中で、30年を目処とした長期的目標と10年の短期的目標を設定しており、当面は短期目標にある「サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する」に向けた行動を実践していかななくてはならない。そのために展開すべき取り組みは、資料4のように現段階においても概ねカバーされていると思うが、議論段階にある項目を実際の取り組みにどのように繋げていくかが課題である。そこで今後の進め方として、各委員や環境省の活動をメーリングリストやホームページ等で積極的に情報発信していくとともに、ワークショップではより具体的な活動について議論していくよう工夫していきたい。

(土屋会長) 取り組みの効果が10年後には目に見えて現れないといけない状況ですが、何か意見あるか。

(吉田会長代理) 協議会は、年数回の開催のため、活動を実行するという観点では機動性が低い。そこで協議会でできないこと補正するため、地域委員会を立ち上げることを提案したい。地域主体であれば月1回くらいのペースで会議を実施できるし、機動性も高いと考える。

(灘岡委員) 地域委員会の提案は、是非進めて頂きたい。取組が企画(議論)段階から実行段階へ移行するためには、そのための体制を構築することが必要で、吉田会長代理提案の地域委員会であれば、実行組織として良いのではないかと思う。自然再生に関する活動は地元中心で取り組まないと臨機応変な対応はできないだろう。また、実行段階ではお金も大事になってくる。その意味でも資金メカニズムグループや行政の予算確保にも期待したい。

(入嵩西委員) 地元が中心になって活動していくことには賛成である。ただし、農家や海人が持続的に生活していけるシステムの構築が不可欠である。生活に余裕がないと環境保全できないし、活動も継続できない。そのためには、農業・漁業支援を充実させていくことが大事だと考える。

(環境省) 吉田会長代理の意見に賛成である。地元活動委員会のようなものがあれば、環境省としても、支援していくこともできると考える。協議会規約第14条3にある「運営事務局連絡会議」ようなものとして位置付けて地元委員会を設置することも可能と考える。

(沖縄総合事務局) 地元からの要請を実現していくのが我々の仕事だと認識している。つなぎ役として善処したい。

(土屋会長) 協議会の下に地元委員会を設置し行動を実行していくという方向性について、決を取りたいと思うが如何か。(拍手) それでは、そのような方向性で今後進めていくことでお願いしたい。

(土屋会長) 何か活動の実行に繋がるようなアイデアはあるのか。

(吉田会長代行) 普及啓発Gのプロジェクトを推進していくとか、いろいろあると思うが、まずは、委員会の人集めからやっていきたい。地元の間が集まるのだからメールではなく、顔を合わせてやっていくのが良いと考えている。

(3) テーマごとのグループディスカッション及び意見交換

●陸域対策（赤土・生活排水等の流入対策）〔座長代行：奥田所長（環境省）〕

「石西礁湖自然再生行動指針【陸域対策】（案）」の内容について確認を行い、今後の取り組みの方向性について議論を行った。

①「石西礁湖自然再生行動指針【陸域対策】（案）」の修正箇所について

- ・ 作成者名を、「石西礁湖自然再生協議会」から「石西礁湖自然再生協議会陸域対策グループ」に改める。
- ・ 「2.経緯」に、「平成21年1月 第5回グループディスカッション」を追加する。

②「5.陸域対策の具体的な取組」の「(1) 3」具体的な行動」について

- ・ 「どこの地域で、だれが、どのようにやるのか」といった具体性を持たせる必要があるのではないか？
- ・ 農業団体が参加していない状況で、「具体的な行動」を議論するのは難しいのではないのか？
- ・ 「サトウキビの増産」と「減耕起栽培」は矛盾するように思われるが、それぞれの地域にあった方策を選択していけば良いと考える。
- ・ 各取組には、特に優先順位はない。
- ・ 各取組について、石垣市役所の担当部署を整理しておけば、支援策や施策等について相談することができ、具体的な行動に移しやすい。

③今後の取組について

- ・ 農家の方に、実際の取組について発表していただいて、情報を共有化することが必要。そのためには、誰にどんな話を聞きたいのかまとめておかなければならない。
- ・ 具体的な取組を行うにあたっては、JA等を含むより多くの個人や団体に参加していただいて、具体的なアドバイスを得られる体制を作っておく必要がある。
- ・ 今後は、「石垣島周辺海域環境保全対策協議会」とも、情報交換等が行えると良い。

●普及啓発（サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発）〔座長：灘岡委員〕

これまで作成を目指していた行動計画については、石西礁湖自然再生という枠組みにおいてどの様な位置付けになるか整理する必要があったが、全体会合において石西礁湖自然再生はすぐにも具体的な行動を起こさなければならない状況にあるという認識を受け、普及啓発Gがその立役者になるという理解に至った。

- ①協議会内の連携強化の仕組みづくりについて検討すること
- ②一般への広報啓発の推進（石西礁湖自然再生の取組のきっかけに繋がる具体的なアクション）が今後の議論の方向性として示された。

【石西礁湖自然再生協議会内の連携強化の仕組みづくりについて】

- ・全体会合において吉田会長代理から提案のあった地元主体の実行グループの動向に併せ、今後は普及啓発Gのアクションの具体的な実施・展開を加速するべく、地元主体の普及啓発G実施体制を早急に実現させていく。

【一般に示す自然再生に繋がる具体的なアクションについて】

- ・全体構想の短期目標設定期間である10年後に短期目標を達成すべく、必要な普及啓発のアクションを早急に具体化していくべき。
- ・普及啓発活動は、その持続性と機動性が大事になってくる。
- ・これまで取り組んできた行動計画づくりで挙げられたアクションも参考にできる。
- ・協議会として一般に示すアクションは、分かりやすいようタイトルやキャッチコピーを付ける。各自実現可能であろうというものをいくつか挙げてもらい、それらを協議会から関連組織との連携などに活動の場を拡げ、広報啓発を加速させていきたい。

【具体的なアクション案】

(1) 「海人の魚を食べようプロジェクト～地産地消の推進～」

- ・地元の魚を食べなくなっているため、魚価の低下を招き、海人の収入が減っている。
- ・地元漁民をサンゴ礁保全へ目を向かせるには、経済的余裕が必須。地元漁民に直接還元するマーケットとして「さしみ屋」があって、その「さしみ屋」で海産物を買うことを促進させるべき。
- ・すぐできる取り組みであるし、いろいろ発展していく可能性もある。
- ・農業者にも当てはまる問題であり、総合的な地産地消の促進がサンゴ保全に繋がる。

(2) 「うなじゅらプロジェクト～海域への理解～」

- ・地元の伝統文化や、“うなじゅら（サンゴの一斉産卵）”等、昔からあるサンゴの知識を体験すること・知ることにより、サンゴ礁と人の生活との関わり合について理解を深める必要がある。
- ・海に対する理解を深めるため、おじいによる昔の石西礁湖を語る場、海人体験、ダイビング体験等イベントを実施。
- ・最終的にはサンゴ礁再生に繋がることとなるため、これを推進するアクションを示すべき。

- (3) 「サンゴを見たことのない子どもゼロプロジェクト～環境教育プログラム～」
- ・地元子ども達が身のまわりにあるサンゴを知らずに成長することのない世の中になるべき。
- (4) 「木を植えてサンゴを守ろうプロジェクト～カーボンオフセット～」
- ・地域の農地保全と CO2 排出量削減に寄与できる。
 - ・カーボンオフセットツアーを行い、観光者に植樹をさせるような世間になればよい。
- (5) 「昔の魚を呼び戻そうプロジェクト～放流事業～」
- ・放流した稚魚が健全に育つ海に再生させるという意味で、稚魚放流事業と自然再生事業はリンクできる。
 - ・モニタリングはダイビング協会等と連携することも視野に入れるべき。
- (6) 「海のエコマーク認証プロジェクト」(具体的なキャッチコピーは未定)

【その他の意見】

- ・ゲストダイバーには潜水前に必ずサンゴの勉強をさせるべき。
- ・マイカップを持つ世の中になってもらいたい。
- ・取組を円滑に推進していくために、情報発信の際は、取組に参加する・アクションを実施する受け手に対してインセンティブが発生するような仕掛けづくりも必要。
 - 認定証みたいなモノを与える。
 - 石西礁湖からの呼びかけですといったフレーズを付加する。
- ・当面は、普及啓発としての早急な実行を目指すため、これまでの行動計画づくりも参考にしながら、協議会が一般にサンゴ礁再生の具体的に示すアクション事例集作っていくこととする。その上で、円滑な運用方法、世間の浸透度モニタリング、アクションの見直しをどうしていくか等を議論していく。

【今後の予定】

- ・上記の具体的なアクション案(1)～(6)について、各プロジェクト案のメモとして、プロジェクト名称、概要、想定される実施主体、必要であれば予算の概略規模を、提案者にA4で半ページ程度にまとめて普及啓発Gメーリングリスト上に配信して頂く。
- ・その他のアイデアがあればメーリングリストでやりとりする。
- ・各アイデアは事務局でとりまとめる。

●資金メカニズム（寄付金の募集と運用）[座長：恵委員]

① 口座開設について

- ・ 石垣住所の口座を開設する必要がある。
- ・ 基金事務局の委託先候補を待ってはなかなか口座が開設できない。
- ・ 口座開設にあたり吉田会長代理の住所を使用する許可を得た。

② 運営委員会について

- ・ 運営委員については、協議会の議決に基づき再度選出が必要になる。

（寄付金等細則第5条第2項、3項）

- ・ 今後の議決の方法として、メールで行うこととする。

<運営委員候補9名（五十音順）>

- 鹿熊 信一郎
（資金メカニズムグループ／沖縄県八重山農林水産水産振興センター主幹）
- 灘岡 和夫
（陸域対策グループ座長／東京工業大学大学院情報理工学研究科教授）
- 宮本 善和
（資金メカニズムグループ／美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会）
- 恵 小百合
（資金メカニズムグループ座長／美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会）
- 野島 哲
（資金メカニズムグループ／九州大学大学院理学研究院理学府附属天草臨界験所）
- 吉田 稔
（石西礁湖自然再生協議会会長代理／八重山サンゴ礁保全協議会会長）
- 環境省那覇自然環境事務所（協議会運営事務局）
- 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課（協議会運営事務局）
- 基金事務局（鷺尾雅久：資金メカニズムグループ／島の未来を考える島民会議）

③ 基金事務局及び監査について

- ・ 基金事務局の委託先がまだ決まっておらず、作業が進んでいない状況にある。
- ・ 口座開設のため、鷺尾氏及び吉田会長代理によるボランティアによる作業を進める。
- ・ 基金の監査について、協議会に諮ることとした。（寄付金等細則第15条第2項）

<監査員候補2名（五十音順）>

- 入嵩西 正治（陸域対策グループ／農業者）
- 大堀 健司（普及啓発グループ／エコツアーふくみみ）

④ 「石西礁湖サンゴ礁基金事務取扱規定」について

- ・ ゆうちょ銀行の口座開設には、住所、代表者、発足日などを記した規定が必要。
- ・ 鷺尾氏より規定案が提案された。今日の結果を持って修正を加え、口座開設作業を進める。

⑤ 今後の協議会及び運営委員会について

- ・ 協議会において、運営委員及び監査を選出する。
- ・ 協議会に、第 11 回協議会終了後に運営委員会を開催すること、運営委員会にて基金事務局を選定し口座開設の手続きを進めることを報告する。
- ・ 協議会終了後、運営委員会開催し、基金事務局を選定する。
- ・ 運営委員会において、代表を選出し、議決をメールで行うことを確認する。

(4) 意見交換

●**陸域対策 G 奥田所長（環境省）**

今回のグループディスカッションでは主に行動指針（案）の確認を行った。これは、各々の立場で実施する場合の指針としてとりまとめたもので、グループでの取り組みという位置付けであるため、陸域対策 G 名で仕上げることになると考えている。内容としては、今後行っていくべき行動のリストアップと、具体的に実行していくために必要な地域での議論やテーマ毎の情報発信を充実していくこと、関連団体等を巻き込んでいくこと、などを掲げている。

今後は、この指針をもってグループとしては一区切りついたと考えているので、陸域対策 G は発展的に解消し、各々がテーマの実行に向けた取り組みへと移行していくこととした。

●**普及啓発 G 灘岡座長**

今回は、焦点を絞って、具体の実施プランについて議論した。その結果、6 点についてテーマ出しがあった。今後は、メーリングリストでやりとりしながら、リスト化を進め、これらプロジェクトへの参画者の仕分け作業等にすぐにでも取り組んでいきたい。

●**資金メカニズム G 恵座長**

資金メカニズム G では、この協議会前までにワークショップ 2 回その他、メーリングリストでのやりとりを通じて、議論を重ねてきた。

まず、運営委員会の任期が切れるので、再任について諮りたい。委員は、鹿熊信一郎、灘岡和夫、宮本善和、恵小百合、野島哲、吉田稔、環境省那覇自然環境事務所（協議会運営事務局）、沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課（協議会運営事務局）、基金事務局（鷺尾雅久）としたい。また、監査役は、入嵩西正治、大堀健司としたい。承認頂ければ、早速この協議会後に運営委員会を開催したいと考えている。（以上、敬称略）

寄付金のホームページについてはほぼ完成しており、口座を開設できればすぐに運用できる状態である。皆さんの寄付もお待ちしている。

また、サンゴサポーター第 1 号として歌手の加藤登紀子さん打診したとこと快諾を頂いた。

（土屋委員長）運営委員及び監査役について、先に名前の挙がった方々でよろしいか諮りたい。

よろしいでしょうか。（拍手）承認されたということで、よろしくお願ひしたい。

（閉会）

以 上